

残れる町、戻れる町へ

～高校生活を過ごしただけの町にならないために～

北海道ニセコ町 松田 真啓



第 1 章 ニセコ高校の再編と地域社会の課題

第 1 節 教育環境の変化と学校改革の進展

ニセコ町立北海道ニセコ高等学校は、1948 年の開校以来、農業や観光といった基幹産業を支える人材を輩出し、地域に根ざした公立高校として長い歴史を歩んできた。近年、人口減少と少子化の影響を受け、地方の高校はその存続が危ぶまれる状況が多くある。

ニセコ高校も例外ではなく、2020 年度の入学生数が、定員 40 名に対し 9 名にとどまった事実は、地域社会に大きな衝撃を与えた。この事態を受け、町は学校の存続をかけた抜本的な改革に乗り出した。2022 年度に設置された「ニセコ高校魅力化検討委員会」では、有識者や教育関係者、さらには幅広い町民からの意見を吸い上げ、単なる存続のための対策ではなく、「選ばれる学校」となるための指針を策定した。

こうした取り組みの結果、入学生数は増加してきている。さらに、2026 年度からは現在の定時制緑地観光科の募集を停止し、定員 70 名の全日制「進学型単位制総合学科」として開校する。新設校では、ニセコ町という国際的なフィールドを活かした「国際教育」と、自ら課題を見つけ解決する「起業家教育」を教育の柱に据える。これにより、多様な進路選択が可能となり、活気あふれる学びの場としてスタートする。

第 2 節 国際観光都市ニセコにおける雇用・住宅不足の現状

ニセコ町は、世界屈指のスノーリゾートとして、国際的な知名度を誇る観光地である。冬期間を中心に多くの外国人観光客が訪れ、移住者や外資系企業の参入も活発である。しかし、経済活性化の影で、地域コミュニティとしての持続可能性には、観光地特有の課題がある。

国際観光都市として発展を遂げる一方で、季節雇用への偏りや地価高騰による住宅不足といった構造的課題が浮き彫りとなっている。これらは、高校を卒業した若者が町に定着することを難しくしており、教育改革の成果を地域の活性化に結びつける上での大きな障壁となっている。

第 3 節 残れる町、戻れる町なのか

新設校の開校により、これまで以上に全国から高い志を持つ学生が集まることは期待される。しかし、彼らにとってニセコ町が「3 年間の学びの場」という通過点に過ぎなくなってしまうと、教育への投資が地域の持続的発展に直接結びつくことはない。町立高校で教育を受けた優秀な人材が、将来「ここで働きたい」「ここで暮らしたい」と望んでも、通年で働ける仕事がなく、住む場所もない。そのような「残れない町」「戻れない町」のままでは、

学校改革の成功は限定的なものに留まってしまう。

筆者は、ニセコ町教育委員会に所属しており、北海道ニセコ高等学校事務職員として勤務している。本レポートでは、多感な高校生活をこの地で過ごした卒業生が、将来の選択肢としてニセコ町を考えた際、果たしてこの町が人生の基盤を置くに値する「残れる町、戻れる町」として機能しているのか、考察を進めていく。

第 2 章 高校改革「地域密着型」から「グローバル進学型」へ

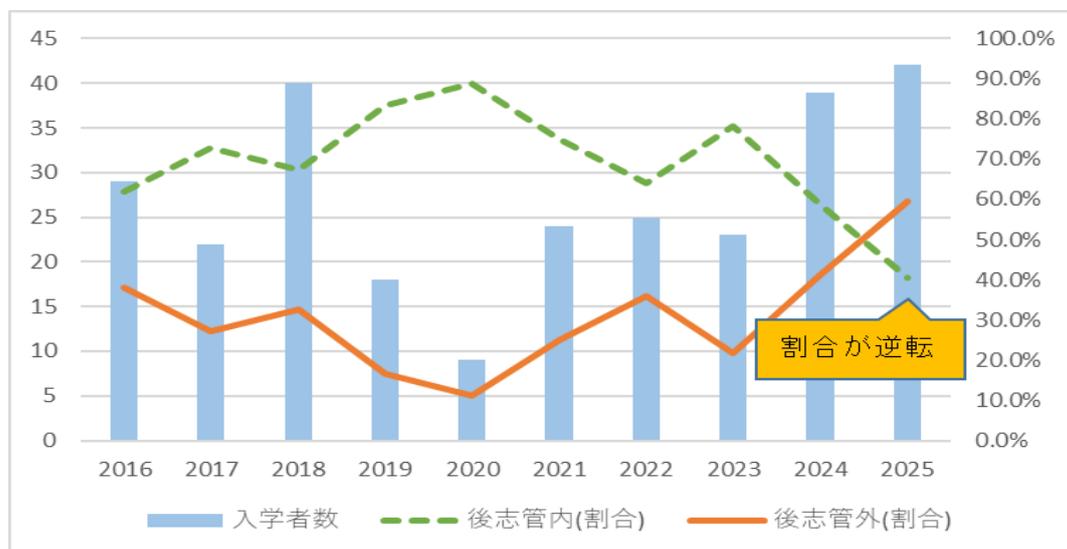
第 1 節 北海道ニセコ高等学校の魅力

現在の北海道ニセコ高等学校は、昼間定時制の農業高校として、独自の教育実践を積み重ねてきた。ニセコ町の地域特性を生かした教育で、ニセコで学んだことに誇りを持ってたくましく生きる人を育てる。最大の特徴は、3年または4年という柔軟な卒業年限を設けつつ、基幹産業に直結した全国唯一の「緑地観光科」を設置している点にある。

2 学年次から分かれる 2 つのコースは、いずれも単なる知識の習得に留まらない実践的な内容である。「アグリフードコース」では、スマート農業や有機栽培といった持続可能な農業を志向し、地元の農家と直接触れ合う中で「食」の根源を学ぶ。一方、「グローバル観光コース」では、世界的なスノーリゾートとしての地の利を最大限に活かし、実践的な英語力とホスピタリティを磨く。特に 4 年次におけるマレーシアの「YTL ホテルズ」への半年間に及ぶインターンシップと留学制度は、公立高校としては極めて先進的な試みであり、生徒に国際感覚を養う機会を提供してきた。

こうした独自のプログラムは、近年、全国的な注目を集めている。かつてはニセコ町を含む後志(しりべし)管内の中学生が入学者の中心であったが、寮の整備や「地域みらい留学」等の浸透により、現在は全道・全国から生徒が集まる「教育移住」の拠点となっている。2025 年度には管外出身者が管内出身者を上回るという逆転現象が起き、ニセコ高校は「地元の学校」から「全国から集まる、地域をフィールドにした学校」へと変わってきている。

図表 1 ニセコ高校入学者数の推移（北海道ニセコ高等学校内部資料を基に筆者作成）



第 2 節 新設「ニセコ町立ニセコ国際高等学校」の構想

2026 年度、ニセコ町の教育は歴史的な転換点を迎える。新たに開校する「ニセコ町立ニセコ国際高等学校」は、グローバル社会と地域の課題を直結させた先進的な学びの場を目指し、地域への誇りと世界とのつながりを意識した「シビックプライドを持ったグローバル人材の育成」を最高目標に掲げる。教育の柱となるのは、以下の 3 点である。

- ・柔軟なカリキュラム体系

「メジャー（系列）」×「マイナー（選択科目）」の組み合わせにより、生徒一人ひとりの進路や興味に応じた深い学びを追求する。

- ・国際教育の日常化

校内教育拠点「NISEKO World Village（英語村）」を設置し、多文化・多言語が交錯する環境で、生きた国際感覚を養う。

- ・探究・起業家教育の導入

DX ハイスクールとして、AI やデータサイエンスを活用し、自ら地域課題を発見・解決する力を育む「起業家精神（アントレプレナーシップ）」の育成に重点を置く。

図表 2 新しい高校の特徴 北海道ニセコ高等学校（2025）より引用

新しい高校の特徴

<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">1 総合学科(進学型単位制)</h3> <p>系列案： ◆グローバル系列（国際、外国語、観光など） ◆環境科学系列（理、工、農、医、情報など） ◆人文社会系列（文、経済、心理、教育など）</p> <p>科目案：ニセコ学（アクティビティ、森林）、情報（AIプログラミング、ITプロダクトスキル）、家庭（ワールドキッチン）、体育（インストラクター）</p> <p>上記以外にも興味関心に応じた科目を多数設置！</p> </div>	<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">2 学校の最高目標 </h3> <p style="text-align: center;">『シビックプライドを持った グローバル人材の育成』</p> <p style="text-align: center;">（※現在のニセコ高校でも同じ目標を先行して実施中）</p> <p>ニセコ町や自分の関心のある地域に対して誇りや思い入れを持ち、世界とのつながりを意識しながら、幸福な未来の実現を通して、より良い地域を他者と協働して創造していこうとする自負心を持つ人を育てる →人口減少等の社会課題に埋没しない国や地域を創ることができる人に</p> </div>
<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">3 全日制・定員 70 名</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆全世界から多様性豊かな生徒が入学 →全世界・全国からの生徒募集、寮生による地域活性化 ◆教員数増加により教科・科目を拡充 →国公立大受験科目への対応 ◆生徒数増による学校の活性化 →学校行事の充実、部活動拡充 ◆受験のしやすさがアップ →地元から受験しやすく全日制高校へ出願変更も可能に </div>	<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">4 国際教育</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆独自教科・科目の設置や外国人生徒への日本語教育 →「国際教養」「持続可能な観光」「世界の言語と文化」「やさしい日本語」などの科目を検討中 ◆海外研修、海外高校留学、海外大学進学 →マレーシアYTLグループ（YTLホテルズ ザ・リッツ・カールトンクアラルンプール）での研修、台湾の台中科技大学などとの連携 ◆グローバルで多様性のある生徒との出会い →外国人生徒や海外在住経験のある生徒の入学 </div>
<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">5 NISEKO World Village (英語村)</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆ALT(外国語指導助手)やCIR(国際交流員)などの外国人スタッフや外国人の生徒との交流 ◆世界の言語や文化を知るためのイベント企画・開催 (お花見、世界の季節イベント、キャンプなど) ◆絵本ワールド（ニセコ町で開催される絵本を介して子どもたちの世界観を広げる国際交流イベント）の運営や一部企画への参加 </div>	<div style="background-color: #f9f9f9; padding: 10px; border: 1px solid #ccc;"> <h3 style="margin: 0;">6 起業家教育</h3> <ul style="list-style-type: none"> ◆デジタルスキルと課題解決力の育成 →地域課題をAIやデータサイエンスを活用し解決 ◆小樽商科大学と連携したプログラムの実施 →起業家による講話や企業による先端技術体験など ◆放課後スタートアップ「StarsUP」 →企業や地域のサポートのもと、新たな価値やアイデアを社会へ提案 </div>

第 3 節 まちづくりと教育の統合、次世代人材育成

新しい高校の目標は、生徒一人ひとりが自己の幸せ (Well-being) を実現し、その結果として、持続可能な地域や国を支える担い手へと成長することにある。「SDGs 未来都市」および「環境モデル都市」であるニセコ町のまちづくりと一体となった教育を推進する。町の環境政策や持続可能な観光開発の実践を教材として直接学ぶことで、生徒は「自分が学ぶことが、いかにして地域を良くすることに繋がるか」をリアルに実感できる。自分自身の幸せと、地域の持続可能性が地続きであることを理解した人材は、ニセコ町で培った誇りと志を持って社会に貢献する存在となるはずである。

第 3 章 地域社会の現状と定着を阻む課題

第 1 節 ニセコ高校卒業生の進路状況

ニセコ町の基幹産業は農業と観光である。特に近年はスノーリゾート開発が進み、外国資本の参入も多い。その結果、ホテルや飲食業などのサービス業が拡大したが、正規雇用の割合は高くない。町内企業の求人を見ても、短期雇用や季節労働が中心で、長期的なキャリア形成が難しい点が課題である。

こうした現状は、ニセコ高校の卒業生の動向にも表れている。近年、進学を志向する生徒の割合は増加傾向にあるが、多くは専門学校や大学への進学を機に町を離れ、そのまま都市部で就職・定着する道を選んでいる。2019 年度から 2024 年度までの 6 年間で、町内での就職を選択した卒業生がわずか 10 名程度に留まっているという事実は、地元で学びを得た若者にとって、ニセコ町が「将来を託せるキャリアの場」として機能していないことを物語っている。

図表 3 卒業生の進路状況 (北海道ニセコ高等学校内部資料を基に筆者作成)

	2019	2020	2021	2022	2023	2024
町内就職	3	3	2	1	2	2
町外就職	8	10	6	4	5	8
大学進学	3	1	4	1	3	7
専門学校進学	3	15	4	3	6	7
合計	17	29	16	9	16	24

第 2 節 地元企業の採用意欲と現実の乖離

ニセコ町には、観光・農業・建設といった多様な産業領域が存在し、地域経済を支える企業が数多く活動している。しかし、これらの企業が高校卒業生を安定的に受け入れ、育成していく体制には大きな障壁が存在する。2020 年に実施された商工会加盟企業へのアンケート結果は、この課題を浮き彫りにしている。採用を積極的に検討している企業は存在するものの、直近 3 年間で高卒の新規採用を行った企業は回答のあった 19 社のうち、8 社に過ぎなかった。

筆者が行った町内企業への聞き取りでも、「ニセコ高校の卒業生を積極的に採用したい」という前向きな声が多く確認できた。中には「進学後の成長した姿で戻ってきてほしい」という期待と、それを実現するための具体的な「戻ってきてもらうためのアイデアが必要」との意見や、「大学進学で学べることも大事だが、就職して実社会で働く中で学べることもまた多く、若い時期の成長にとって重要である」といった、高卒採用を通じた人材育成に強い意欲を示す経営者もいた。

それにも関わらず実績が伴わないのは、こうした企業の熱意が、生徒側が求める条件や将来への不安と噛み合わず、ミスマッチが生じていることが推察される。このミスマッチの要因は、単に賃金水準だけの問題ではない。若者にとって魅力的な「キャリアの多様性」や「生活の安定性」を提示できているかという点が問われている。さらに、国際リゾート化に伴う住宅不足や家賃の上昇は、初任給レベルの若者が町内で自立した生活を送ることを極めて困難にしている。企業側が積極的に採用を検討していても、若者がこの町で暮らし、働くことのリアリティを持ってない限り、人材の流出は止まらない。

新設される「ニセコ国際高等学校」がどれほど高度な教育を提供しても、その受け皿となる町側の雇用環境や生活基盤が、若者の求めるものでなければ、学校改革が地域に還元されることはないと考える。

図表 4 2020 年に実施したアンケート結果（商工会所属 19 社から回答）

過去に高卒新規採用があるか		今後の高卒採用の計画について	
直近 3 年間で採用がある	8	積極的に採用したい	10
4 ～ 10 年の間に採用がある	1	採用を考えている	5
10 年以上前に採用がある	4	アルバイトの採用計画はある	2
無い（わからない）	6	採用する予定がない	2

第 3 節 若者の定着を阻む三つの課題

新設される「ニセコ国際高等学校」の教育方針や、高い志を持って全国から集まる生徒の特性を鑑みれば、卒業後に大学等へ進学する流れは今後さらに加速することが予測される。しかし、町にとって重要なのは、進学率という数字の向上ではなく、一度町を離れた若者が、数年後に「ニセコに戻る」という選択肢を現実的に描けるかどうかである。

ニセコ高校を選び、重要な 3 年間のこの地で過ごした生徒にとって、ニセコ町は単なる「学びの場」という通過点であってはならない。地域、企業、そして行政が一体となり、彼らが培った専門性や感性を再び町へ還元できる「循環の仕組み」を構築することが急務である。ニセコ町を人生の拠点として再選択するために克服すべき課題は、以下の 3 点に集約される。

① 職種選択の限定性

ニセコ町は、観光と農業を基幹産業とする町であり、特に冬季にはスキーリゾートとして国内外から多くの観光客が訪れる。現在、ニセコ町の雇用は観光関連業（宿泊業、飲食業、交通業）や農業に集中しており、通年雇用や専門的な区分は限定されている。そのため、自分の希望する仕事を見つけられず、進学や就職を機に町外へ流出する傾向が強い。また、町内企業の受け入れる体制や意識が十分でない点も問題である。若者が地域に戻りたいと思うためには、単に仕事があるだけでなく、「やりがいを感じられる仕事」や「自らの学びを活かせる場」が必要である。特に、国際教育や起業家教育で培ったスキルを町内で活かせるような支援策が求められる。

② 投資の過熱による住宅不足

ニセコエリアへの外資を中心とした観光投資は、地価の異常な上昇を招いている。これは単なる不動産価値の上昇に留まらず、町内の賃貸市場にも深刻な影響を及ぼしている。投資対象となるコンドミニアム建設が優先される一方で、一般向けアパートの供給は停滞している。限定的な供給数に対し、工事関係者や観光・季節労働者の需要が集中することで、家賃相場は一般的な地方都市の水準を大きく逸脱し、都市部並みかそれ以上の高水準で推移している。初任給レベルの若者が町内で自立して暮らすコストが極めて高い現状は、町に留まりたくても「物理的に住む場所がない」という深刻な障壁を生んでいる。

③ 地域コミュニティとの関係性の希薄化

高校生が地域と関わり、地域に愛着や誇りを持つことは、将来的な定住や地域貢献の推進につながる重要な要素と考える。かつてのニセコ高校は、後志管内出身者が多くを占め、地域社会との関わりが自然に形成されていた。しかし、近年は全国から生徒が集まり卒業が「ニセコとの縁の切れ目」になりやすい。地域学習や総合的な探究の時間を通じた地域連携のカリキュラムはたくさんあるが、町外からニセコ高校に進学した生徒にとって、卒業後も町との関わりを維持する仕組みが弱いことも課題である。高校生活の3年間で築いた人間関係や地域との絆を、卒業後も継続的に維持できるような仕組みが必要である。

第 4 章 残れる町・戻れる町への転換

第 1 節 「町内企業とのマッチング」と「起業支援モデル」の構築

残れる町・戻れる町であるためには、在学中から地域経済の現場と深く繋がり、自分自身のキャリアがニセコ町とどう結びつくのかを具体的にイメージできる機会が不可欠である。本節では、町内企業との新たな関係構築と、自ら仕事を生み出す起業支援の2点を提言する。

・実践的な関係性を築く「町内企業とのマッチング」の推進

単なる求人情報の提供という従来のマッチングを超え、教育課程と地域ビジネスが深く関係し合う「顔の見える」仕組みを構築する。卒業を間近に控えた生徒だけでなく、全学

年の在校生を対象とした町内企業による説明会を定期的で開催し、企業のビジョンや実際の仕事内容を直接聞く機会を設ける。また、インターンシップを積極的に活用し、実際の現場での就業体験を通じて、町内で働くことのやりがいや具体的なキャリアパスを早期からイメージできる環境を整える。

・教育と産業を直結させる「起業支援モデル」の構築

高校での起業家教育を町内産業の活性化に結びつけるために、卒業生が町内でビジネスを立ち上げる際の支援制度を整備することが望ましい。ニセコ国際高校では、地域課題の探究活動を通じた起業家精神の育成に力を入れ、実践的なプログラムも展開される。一方、ニセコ町では「ニセコビジネススクール」、「ニセコ町にぎわいづくり起業家等サポート事業助成制度」など、具体的な起業支援策が設けられている。この2つを結びつけ、高校生が教育を通じて得たアイデアや起業家精神を、地域の支援を活用して実現するための具体的な仕組みを提言する。また、起業した卒業生を「客員講師」として母校に招く循環型のシステムを構築する。成功事例を在校生に共有することは、次世代のロールモデルとなり、町内で挑戦し続けることの価値を継承することに繋がる。

第2節 若年層の生存基盤を確保する住宅政策の展開

若者が町に留まろうとした際、最大の障壁となるのが異常な高騰を続ける住居費である。これを市場原理に任せるのではなく、行政が戦略的に介入し、若者の生存基盤を確保する必要がある。

・官民連携による低廉な住宅供給（町有地の有効活用）

町内に若者が住める住宅を確保するため、民間企業に町有地を貸し付け、若手就業者限定のアパートを整備する。土地コストを抑制することで、初任給レベルの若者でも自立できる低家賃での住まいを提供する。

・多機能型新寮の活用

現在建設中のニセコ高校新寮は「ニセコ町教育交流センター」として、在校生のみならず移住体験者の一時拠点や、町の課題解決に直結するスタッフの住まいとしての役割を担う。卒業生にこの施設を活用してもらうことにより、在校生との交流が生まれ、住宅問題解決と同時に大事な人材育成の一助となる。

第3節 人口循環プラットフォームによる関係性の維持と継承

物理的な距離を超え、卒業後も町と繋がり続けるためのデジタル・アナログ双方の導線を設定する。

・人口循環プラットフォームの構築

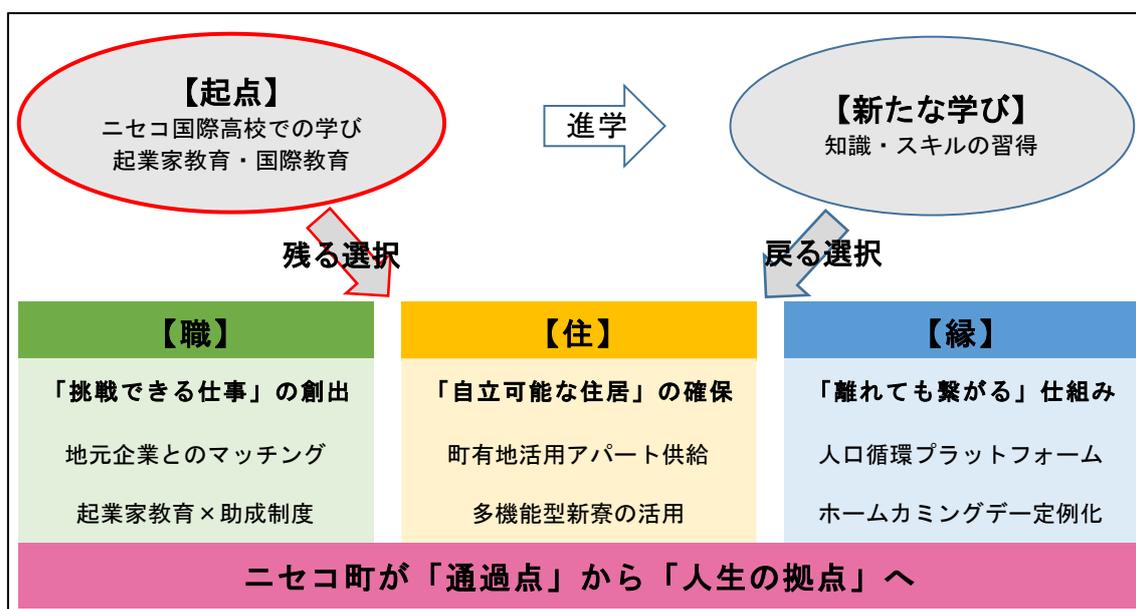
ニセコ高校を軸に、在校生、卒業生、企業、住民、行政がデジタルで繋がるプラットフォームを構築する。町内の求人情報や地域課題を解決するプロジェクトの公募、行政情報をダイレクトに配信し、進学で町を離れている期間も「関係人口」として継続的に地域に関与できる仕組みを整備する。

・ニセコ高校ホームカミングデーの定例化

卒業生を母校に招き、同窓生や教職員、地域住民と交流を深めるイベントを定期開催する。単なる懇親会ではなく、町内企業による説明会や地域交流ワークショップを併催することで、一度町を離れた若者が地域の魅力を再発見し、キャリアの再考やUターンを検討するきっかけを創出する。

これら「職・住・縁」を統合した施策を推進することで、ニセコ町は若者が「自ら幸せに生き、持続可能な地域をつくる」ために戻ってくる、教育と定住の先進モデルへと進化することができる。

図表 5 卒業生が「残れる・戻れる」ための社会モデル（筆者作成）



第 5 章 まとめ

本レポートでは、ニセコ町立ニセコ高等学校の抜本的な改革と、それを取り巻く地域社会の現状を照らし合わせ、卒業生にとってニセコ町が「残れる町」「戻れる町」となり得るのかを考察してきた。

今回の高校改革の目的は、単なる生徒数減少による廃校危機の回避ではない。ニセコという国際的なフィールドを最大限に活用し、新しい高校で「国際教育」や「起業家教育」といった高度な教育を提供することで、次世代を担う多様な人材を育てることにある。生徒が志を持って大学等へ進学し、町外でさらに知見を広めることは、個人の成長にとって非常に喜ばしいことである。しかし、現状のニセコ町において一度離れた若者が再びこの地に戻るといふ選択をすることは、雇用環境や住宅不足といった構造的課題により、極めて難しいと言わざるを得ない。

「残れる町、戻れる町」とは、ニセコ町で高校生活を過ごした生徒が地域への愛着を深め、残りたい、戻りたいと考えたときに、高校で学んだ経験や志を地域社会が尊重し、それを活かせる仕組みと安心して暮らせる環境が用意されている町である。2026 年度に誕生する「ニ

セコ町立ニセコ国際高等学校」が、単なる教育機関で終わるのか、それとも町の未来の拠点となるのか。その成否は、町全体が生活基盤を再構築できるか、そして在学中から育まれる縁を卒業後も繋ぎ続ける仕組みをどう作るか。この極めて難易度の高い問いに対する答えにかかっている。本レポートで示した課題の深刻さを踏まえ、この困難な課題解決に積極的に関わっていききたい。

謝辞

本レポートの作成にあたり、ヒアリングにご協力いただいた皆さま、手厚くご指導いただいた土山教授と土山ゼミ生、第 37 期地域リーダー養成塾関係者の皆さまに心より感謝を申し上げます。

【参考ウェブサイト】

- ・ニセコ町 (2024) 「ニセコ町にぎわいづくり起業者等サポート事業助成制度」、ニセコ町ホームページ、<https://www.town.niseko.lg.jp/kurashi/shigoto/nigiwai/> (2026 年 1 月 14 日最終確認)。
- ・ニセコ町商工会 (2025) 「ニセコビジネススクール 2025 受講者募集」、ニセコ町商工会ホームページ、<https://niseko-shokokai.com/archives/2025/09/2478> (2026 年 1 月 14 日最終確認)。
- ・北海道ニセコ高等学校 (2025) 「新しい高校の概要について」、北海道ニセコ高等学校ホームページ、<https://niseko.ed.jp/notice/general-local-people/458/> (2026 年 1 月 14 日最終確認)。